【第20号内容】
〇連携情報
1高齢者福祉課に
2特定行為研修
3グリーフケア
〇新任挨拶

連携支援センター“縁”だより

～湖西であんきに暮ら住まい～

第20号
2021年 4月

連携情報

1）高齢者福祉課に

令和3年度がスタートしました。皆様におかれましては、まだまだ新型コロナ関連感染症の対応に苦慮されておられることと思います。今までの日常に少しでも早く戻ることができることを願わずにはいられません。

長寿介護課も高齢者福祉課と名称変更され、介護係・高齢者福祉係・地域包括ケア推進係（連携支援センター「縁」含）なっております。

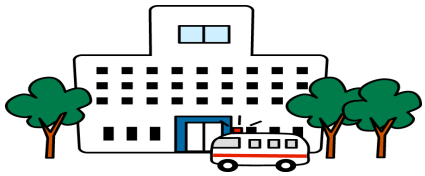
市民の皆様ができる限り、住み慣れた地域で、必要な医療・介護サービスを受けつつ、安心して自分らしい生活を実現できる湖西市を目指していくことに変わりはありません。それには、ご周知のとおり多職種間でさらなる連携協力が必要だと考えています

追伸：
連携支援センター「縁」発信のメール及びたよりの購読状況についてアンケートを実施予定です。現状を把握しご意見を頂くことで、今後の在宅医療・介護連携支援事業にいかしていくことができればと考えています。宜しくお願いします。

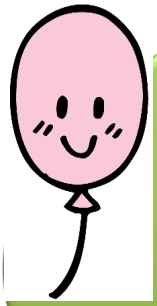
2）特定行為研修について

少子高齢化社会が進む今、チーム医療と地域完結型医療の促進が叫ばれています。「特定行為に係る看護師の研修制度」を終了することで、看護師が患者に寄り添ったタイムリーなケアの提供が可能になり、自立した看護師の育成やチーム医療の促進につながります。（特定行為に対して手順書に基づいて、必要な行為をすぐに行うことが可能になります。）

追伸：
詳しくは、「特定行為やらまいか浜松」作成のリーフレットか動画（別紙参照、配信期間は2021.5.31まで）をご参照ください。
リーフレットや別紙が欲しい場合は高齢者福祉課　尾崎まで。



3）グリーフケアについて



悲嘆（深い悲しみ、苦悩）
＜最愛の家族を突然亡くしてしまった等＞
・悲しみから立ち直り生きるためにできること。
・大切な人を失った悲しみから立ち直る手段
私たち専門職はこのような方々にどのように寄り添い支援していくこと（グリーフケア）ができるのか色々な立場から考えていくことは、看取りを含めた在宅医療を担う、住み慣れた地域での暮らしを支援していくために大切ではないでしょうか？

＜ご挨拶＞
令和3年4月1日より高齢者福祉課　地域包括ケア推進係連携支援センター「縁」に前任者　白井まり子さんの代わりに採用していただきました松井美智子と申します。
専門学校卒業後、看護師として総合病院及び診療所にて勤務。市内特養、包括支援センターにて看護師、介護支援専門員として勤務してきました。白須賀にて育ち現在も市内に住んでいます。海山の幸がおいしく自然豊かで人情にあつい湖西市は、大好きです。
前任者が築いたものを学び早く職場にも慣れ在宅医療・介護連携支援員として皆様と連携していくことができますように努力していきたいと思っています。宜しくお願いいたします。

連携支援センター“縁”（ゆかり）開設時間　月、火、木、金の9：00～16：00電話 ： 053－576－4900（直通）FAX ： 053－576－1220
◇関係者の皆様で共有したい情報、知りたい情報がありましたら当センターにご連絡下さい。メール： kourei@city.kosai.lg.jp

編集　連携支援センター“縁”　　発行　静岡県湖西市役所健康福祉部高齢者福祉課